

令和7年度 幼児教育研修（年齢別担任研修5歳児・第1回）

「子どもの発達と保育者の関わりについて」

～子どもとつくる5歳児の遊び～

日時：令和7年7月2日（水）15：00～17：00

会場：足立区役所 庁舎ホール

講師：東京都立大学 教授 田中 浩司 氏



5歳児の育ちの特徴と援助

5歳児の「理解力」

理解力にはまだまだ個人差がある。本質的な理解はできていないこともよくある

隣の庭に入り込み、木になっていた夏ミカンを取ってきてしまった。話し合って謝りに行ったが、数日後、同じ子どもたちが今度は隣の庭に生えていた竹の子を取ってきてしまった。

神田英雄著『3歳から6歳 保育・子育てと発達研究をむすぶ 幼児編』より



園長先生が大切に飼っていたザリガニを譲り受けたその日に、水道水でザリガニを洗って死なせてしまった。なぜ死なせてしまったのか考えてみると、これまで触れ合う経験がなく、どのように扱ってよいか分からず、結果的に乱暴な扱いになってしまったのではないだろうか。

田中浩司著『あそび込む保育をつくる 実践から探る「保育の知」』より



ポイント 話し合いの場ではわかっていたが、別のことに置き換えることがまだ難しい。目の前のことを理解することと、それを別の事象にあてはめて実行することの隔たりがある。

ポイント 生き物を死なせることはよくないことだと分かっているが、同じようなことを繰り返す。それに対して大人は、「結果」を見て判断するが、何をしようとしたのか「過程」を捉えることが必要。大人側が冷静に仮説を立てながら「過程」に目を向けることで、次の展開が見えてくる。

わかり合い、つながり合う仲間関係

自分の気持ちを表現することが苦手なMちゃんの話

絵本『エルマーのぼうけん』のエルマーが持っていた虫眼鏡を子どもたちが作り、作った虫眼鏡でみかん島とどうぶつ島の地図を見て遊んでいる。この遊びなら、Mちゃんもできるのではないかと期待する。

Mちゃんがエルマーになって冒険場面を表現している。様子を見た子どもたちは・・・

子「トラがお腹すいている時って、怒っているやろな。

Mちゃん怖くなかった？」

M「ちょっとだけ怖かったけど、ガムがあったから大丈夫やった」

子「え～そうなん。すごいな。Mちゃん（ジャングルの中を）歩いている時、木とか、草もよけてたな。そうやな！めっちゃよかった」

ポイント 具体的な手がかりの大切さ

- ・作る遊びが間にあることで、Mちゃんが遊びに入れたのではないかと期待する。
- ・みんなで作っていったことで、Mちゃんの姿が友達の目にも見えるようになった。

ポイント 夢中になることを共有する

「みんなでやる」「なかよくする」といった単純化された育ちだけではない。楽しむ、興味、関心をもつことが大事である。

夢中になることを共有する（あこがれの共有）

遊びの小さなブームがいくつもあると参加しやすい。興味のある遊びには入りやすいので、遊びが仲間関係をつくっていく。

ポイント 参加できずに困っている子どもには、大人が介入することで、子どもが安心して遊びに参加できるようになる。

集団として遊びを楽しむために

集団ならではの楽しさを経験することも大切。クラス「みんな」だからこそ楽しむ活動も大切になる

集団として楽しむための援助

- ・何かあった時は、当事者同士が話せばよい。他は遊びを続けられればよい。
- ・大人も本気でやることで、子どもが俄然盛り上がる。
- ・活動を振り返らせることが、遊びのつながりをもつ。
- ・やりたくなければ、やらなくてよい。遊びの情報交流をし、お互いの遊びを知る、共有できる場が大切である。



遊びをつないでいくことが、集団遊びの楽しさにつながる

集団を捉える上で見落としがちな点

「○○グループの勝ち!」といった後の「ヤッター」は、何に対して? (例:リレーごっこ)

- ・2位の発表を聞いて、1位であることに気付いて喜んでいる?
➡勝ちという言葉に反応している
- ・1位の発表を聞いて1位と知り、喜んでいる?
➡チームが勝ったことを個人的に喜ぶ
- ・みんなが喜んでいる様子を見て喜んでいる?
➡チームが勝ったことを仲間と共に喜び合う

「勝ち」という言葉に、子どもの反応や思いも違った様子が見られることから、「集団」は複雑な構造である。

田中浩司著『集団遊びの発達心理』より

話し合うことの大切さと難しさ

協同性という点では、話し合いはとても大切な活動になる

縦の話し合い



大人が質問し、子どもが答え、大人が評価することの繰り返し。

横の話し合い



お互い思いを伝えることが大事。横の関心の広がりをつなげていくことが大切であり、興味、関心のある話が横の話し合いにつながっていく。



まずは、グループごとなど少人数から。経験したことを振り返る話が、横の話し合いにつながりやすい。

ルールを作る話し合い・・・私たちは何を育てたい?

大人が先走って言いがちだが、やってみて何かあればその時にまた話し合えばよい。子どもが気付いて何か思った時に考えればよい。気付いた時にそれに見合ったルールに変えていくことがみんなでルールを作り上げていくことにつながる。自分の意見を伝え、自分たちで変えていく。それが自分たちで物事を取り決めていく力につながる。

研修生の報告書より

縦と横の話し合いの話聞き、サークルタイムを思い浮かべた。保育園では、横の話し合いをして、話すことの楽しさ、思いを話したり聞いたりしていく大切さを知ってほしいと常に思っていた。今回この話を聞いた時に、しっかり意味が繋がって聴き合う関係作りなんだと、自分が大切にしていることが目で見て、言葉で知ることができてとても良かった。

子どもは自分に関係のある話、関心のある話から聞こうとする。「聞く力」を伸ばすためには遊びの振り返りなど、経験の共有がしやすい話題を設定すると良いこと、遊びの振り返りは大人とゆっくり振り返る経験を作って、丁寧に引き出してあげることも大切だと学んだ。

集団や協同性を大事にしていく中で、一人一人がどれだけ夢中になれる遊びがあるのかも重要であることを改めて学びました。面白そうな事には自然と子どもたちも集まってきて、見てみようと思うきっかけにもなるため、心がわくわくする事をこれからも子どもたちと一緒にわたし自身も楽しもうと思います。